midorinodam.jp

NPO法人
緑のダム
北相模

May 2013 No.351

５月号の１枚：雨の定例活動、恒例の薪割り大会

［巻頭言］ 驚くべき、森の力と若者たちの秘めた力

森の人々が森に帰って来てくれた

森林の保全・再生の定例活動日は、お世話掛としての役割を果たす事に集中していて、お預かりしている森に見落としがあるのではないか。そんな想いから時折、森仲間を誘って〝森の保全・再生の「足りる・足らざる」″を考えながら、巡回路を観察しながら歩く。

中学生たちが取り組む森（なみすけの森プロジェクト）がある。植林２０年ばかりの勾配のある杉林だ。鬱蒼としていた荒廃植林地の下草は刈られ、適度に間伐した伐木は整然と等高線に沿って並べられている。実に美しい森だ。安全に万全を尽くした中学生たちの枝打ち作業は安心して見ていられる。若い顧問教員の力量と参加の中学生たちの素直さが形となって美林を創り出した。（本会Web定例活動報告に掛かり木に悪戦苦闘している動画が載っている。ご覧あれ。）

高校生の手掛けた森は（望星の森）は急斜面の崩落地だったが今は、根を深く降ろす「トチノキ」が植えられ活き活きとした広葉樹林に変身している。

麻布大学を核とした森は、「学生連合：フォレストノバの森」と名付けた。この森で学生は多様な活動をしており、間伐材が様々な製品となって世に紹介されている。この森を卒業した男女ＯＢ達は、一流林業企業で頭角を現していると聞く。ＯＢと学生達は年二回、夏・冬の休暇を利用して集まり、ＯＢは後進学生の指導に当たり、後輩学生たちは自らの人格・技術に磨きをかけている。彼らは、森が真実を教えてくれると言う。

この森に参加する年配者たちは、この若者たちの姿に学んでいる。全ては、森の実践活動が教えてくれる。

石村　黄仁（本会、代表理事）

今月の定例活動

2013.05

5月 5日（第一日曜日）：
小原本陣の森/森林整備、担い手育成、技術向上。
持続的森林経営：弁当持参。参加費：４００円

5月19日（第三日曜日）：
相模湖・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動。
主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費：４００円

FSC
www.fsc.org
FSC® C006376
責任ある森林管理のマーク

[定例活動]相模湖嵐山の森

4月21日（第三日曜日）

朝から雨が降っている。だが、そこは「楽しく、休まず、ボチボチと」がモットーの緑のダム。こんな時には桂北公民館か相模湖交流センターで室内勉強会、のはずであったが、どちらの施設も会議やら講演会やらで空き部屋がない。さて、どうするか？「山へ行こう」といい切ったのは石村さん。さすが当会を今日まで率いてきたつわものである。参加は６３名。

作業基地にブルーシートをいくつか張ってから朝礼の始まり。今日はフォレストノバの新部員に加え、麻布大学・原田先生の授業を受ける学生達の参加もあって実に賑やかである。麻布大学と緑のダムとはつい最近、正式に協定が結ばれたばかり。嵐山を大学側で有効に活用していただくことになっている。原田教室の学生さん達もノバのメンバーになる、ならないに関わらず続けて参加してくれるようで、楽しみは増すばかり。私を含めたおじさん達に活力を与えてもらえるのは何より有り難い。

さて、悪天のため作業はいつも通りという訳にはいかないものの、お昼頃から天候は回復し少しずつ青空が戻ってきた。雨に濡れた新緑の樹々の葉がみずみずしさを増し、水滴をまとったミツデカエデ、ウワミズザクラの花房が陽の光を受け宝石のように輝いている。この季節の森は文句なく美しい。山に来ることができてよかった。施設の部屋がとれなかったこと、石村さんの決断、ともに感謝というほかはない。

作業であるが、森林整備班は主に径路の修復。「生命の森宣言東京」は切り出した材を基地まで運ぶ。来月には径路整備に使う予定だ。お花畑班は引き続きの垣根づくりやレッドロビンの刈り込みを行う。スイセンやムスカリ、チューリップの花が傍らでそっと作業を見守っている。体験学校長の斎藤さんはチェーンソーなど機材の点検を担当。まさに縁の下の力持ち。

一方、若者たちは…。フォレストノバは午前中、新入部員と原田教室の学生さん達の森林案内。瀬戸君、淺野君、治田君らが嵐山の森、ノバの森について解説。普段の熱心な活動、勉強の成果がここで大いに発揮される。午後は薪割りの後、木工・クラフト作業でノコギリなどの用具や森から運ばれた材に親しむことに。

高井戸中は大型のペットボトルに砂糖やお酒を入れてスズメバチのトラップづくり。これからの時期、越冬した女王バチが巣づくりを始め、コロニーがだんだん大きくなってくる。作業中の危険を避けるためには欠かせない作業だ。今日は木を伐ることはないが、それでもはしゃぎながら楽しそうにトラップづくりに励んでいる姿は実に微笑ましい。午後からは完成品を森の各所に設置した模様。私も少し分けていただいて基地や栗畑、ＭＯＭＡ工房の近くにぶらさげてみた。中学生も今日は縁の下の力持ちになってくれたようである。

雨は作業の妨げではあるが、草木には恵みとなる。そんな自然に寄り添いながら、これからもボチボチと楽しく活動していければと思っている。

内野郁夫（本会、理事）

※４月の小原本陣の森の定例活動は相模原市民桜まつりに参加したため、行いませんでした。

[報告１]
湘南の森活動報告

4月27日

前回作業で残った浅間山北斜面から斜面下段の平坦部分及び中央広場にかけての広範囲を分担しながら下草刈り作業を実施。特に中央広場奥はアオキが生育しており、これの除去をメインに作業した。ヤブラン平での草花の生育状況のチェック（今春は例年見られない品種が多く発芽している。作業修了後の工具の整備（各自）ー作業カマが１本紛失か？カマに識別テープ付け検討。本日午後は「湘南の森」の第5回総会を湘南平頂上（屋外）で開催するため、作業を早めに切り上げた。

佐藤　憲隆（湘南の森）

[報告２]
第40回：相模原市民桜まつり　報告

＊　当会として6回目の参加、テーマは「森林・林業の復権」。

4月6・7日で「第４０回相模原市さくら祭り」が開催されました。前日の夜半からの風雨は、天気予報も翌日に持ち越す可能性ありと予想、50万人以上の人出のある祭り実行委員会の判断は大変だろうし、当会受け持ちブース約15参加団体への方々への通知もしなければなず・・・。天気速報の雨足をにらみ、大会本部と連絡を取りながらギリギリの午後3時頃、「決行！」の決定を出しました。

初日朝、なんとか凌げた様子で、開催時刻の午後1時には風は残っているものの市役所正面広場で無事開催セレモニーが開かれました。当会として、参加を呼び掛けた出展団体の皆さまの一つも掛けることなく、誠にありがたい祭りになったと感謝します。

今年の当会の参加テーマは、「森林・林業の復権」で広報幟やチラシもこれに統一し、森林に関わる事業者・皆さまの気持ちも揃いました。開催初日、天候も良くない中、開場前から待ちわびた市民の皆様のミニSLの乗車数から推定するに2千人位のご来場か。相模原市からは、森林に関連する局長・課長クラスの幹部の方々も激励に来られ、双方大いに理解の場となった事も大きな成果でありました。

2日目、翌日には天気も回復し2日計５～6千人の入場者を確保できました。大会本部実行委員会、参加団体、入場者の皆さまのご支援を心から感謝申し上げる次第です。

こんな悪条件の中、参加団体の方々の一糸乱れぬ大会支援の姿には感動するものがありました。現状の荒廃森林の保全・再生に対し沢山の人々のご支援を得て「森林・林業復権」へ向けて具体策に動けるのが、相模原市に関わる森林関連の方々です。今大会を機会により一層「民・産・官・学」の協働に拍車がかかりました。

緑のダム大会実行委員会

[報告３]
カブトムシプロジェクト

　このプロジェクトの始まりは、流木チップを相模ダム管理所からもらい受け、嵐山の作業経路に敷き詰め、残りをブルーシートにくるんで放置したところからです。

　カブトムシとの出会い。翌年夏シートを片付けようとして沢山のカブトムシの幼虫がゴロゴロ。(2007/11/18)
　自然増殖へ。その後間伐材の細い丸太を活かして約1m^{3}の箱を作り、多量に集まる栗畑の落ち葉を腐葉土にしておきカブトムシの自然増殖を誘いました。
　地元小学校の自然教室。落ち葉集めは小学校2年生に、カブトムシ飼育は3～4年生に、子供達の自然体験教室の始まりでした。(2008/11/11)
　そして今。カブトムシ増殖拠点は３か所に、小原の森の古材の製材板で完成しました。食草食樹のオーナー制でミカンの木とキャベツ、パセリを植え付けました。

　腐葉土に欠かせない米ぬかは、地元で農園を経営する先輩会員から入手して来年の腐葉土に向け天地返し。

　これから進めたいこと
(1)カブトムシに限定せず森の生態系に配慮した活動を進めたい。
(2)子供達に安全に楽しんでもらえる環境を整備していきたい。
(3)蝶や小鳥の食べ物を保護し増やすことで生き物が喜んでくれる環境を整備していきたい。
(4)小鳥や小動物が喜んで住み着いてくれる住環境を整備していきたい。
(5)各分野の専門家に支援をもらいながら出来ることから少しずつ森の整備を進めたい。
(6)各活動団体毎に一人プロジェクトに参加してもらい、経過のウォッチングをお願いする。

斎藤　憲弘（本会、理事）

地元小学校にホームステイ

設計者の指導で２号完成

職人や教授も実力を発揮

[報告４]
フォレストノバ
桜まつり報告

　季節は春。日本の春といえば、桜。桜にまつわる物語や、お祭りは全国各地にたくさんあります。ここ相模原でも、４月６、７日の二日間開催で『相模原市民桜まつり』という催しが行われました。相模原市民桜まつりとは、昭和49年（1974年）に市制施行20周年を記念して相模原のふるさとづくりをテーマに始められました。
「72万人のふるさとづくり」
「人・もの・自然、すべての共生を求めて」のコンセプトのもと、市民の手づくりによる催し物や市民パレードなどが行われます。
　ForestNova☆からは、麻布大学、千葉大学、明治大学、法政大学の学生が参加し、お祭りという場所でも森のことを感じてもらえるような『森やしき』と、来てくれた方に森の話をしながらリラックスしてもらえる

『Forest☆Cafe』を開きました。テントの中を森から採った草花で埋め尽くした森やしきは、入った瞬間に森の香りに包まれ、まるで森の中にいるような錯覚を引き起こすような空間として用意されました。Forest☆Cafeでは、その名のとおり、森の本や雑誌を用意し、喫茶店で話しているような雰囲気で老若男女関係なく過ごせる空間をつくりました。

ですが、当日は暴風雨に見舞われてしまい、用意した物品も吹き飛ばされるなど、実行は難しくなってしまいました。一時は中止にすることも考えましたが、その中でも何か出来ることがあるはずだと思い、改めて全員で企画を一から練り直しました。

その結果、嵐山の間伐材や、麻布大学の研究室からお借りした昆虫標本等を展示し、森のいきもの紹介のコーナーをつくることになりました。急ごしらえの企画だったのですが、来てくれたお客様には好評で、特に虫が好きな子どもたちとは話が弾み、いくらでも話せそうでした。また、親子で来てくれたお客様の中には今度嵐山に行ってみたいという方もいらっしゃって、嬉しい限りでした

今回は雨が降るというトラブルもありましたが、森ではない場所で森のことを伝えるというのは本当に難しいことです。こういったイベントの度に悩み、ときには無理なのではないかと思うこともあります。それでも、あきらめるのではなく、少しでもいいから森に目を向けるきっかけづくりができるように、様々な場所で活動をしていきたいと思います。

淺野　雅樹（Forest Nova）

[報告５]
嵐山定例活動に参加して

3月17日

嵐山の活動は森林の包容力に抱かれたような時間でした。
まだ幼い一歳の娘と私（主婦36歳）２人で3月17日の嵐山森林ボランティアに参加です。

嵐山の活動は自然の多様性と同じく嵐山の活動も多種多様。年齢層も多種多様（中学生や大学生、社会人の方々、私のような主婦など）。参加した回では梅を愛でながらお茶会、カブトムシの幼虫がつくる堆肥の天地がえし、森林整備、花畑班の庭園の水道づくりなどがありました。

取材を名目に色んな活動に顔を出したのですが、どこに行っても娘共々暖かく迎え入れていただきました。そしてどの場所でも‘ドキドキ’‘ワクワク’、壮大で面白い話が飛び出して来ます。カブトムシの幼虫を飼育しているところでは堆肥が生み出す鉄が海に行くと酸素を発生させること。それが大気中の酸素濃度に大きく係る話を聞けました。「地球上のすべての事象は繋がっているんだよ。」と教えていただきました。お花畑班のところに行くと、日頃交わることのない職種の方々（大学教授さんや出版会社の方など）が一緒に作業されていました。そこでは「この活動の中で、神奈川県産材を使った木工品を学校で利用しようとか、通販で販売しようという動きがあるんだ。志が同じで違う職種の人たちが参加しているから、この活動には色んな可能性があるよね。」という話が聞けました。加えて「楽しいからこの活動を無理なく続けてるんじゃないかな。」という言葉も。確かに久しぶりに大人の楽しそうな顔を見た気がします。そしてお茶会にも参加。娘も初の抹茶を「あーっ」と美味しそうにいただきました。お茶会も作法を重んじるというより自然を楽しむ手段として行われているように感じました。娘が走り回る中、梅の花をめでながら話にも花が咲きました。

今回参加して感じたのは、様々な生き物が繋がって森が成り立っているように、緑のダムの活動は多種多様な生き方を許容して繋げてくれる場だということ。実のところを言うと、社会のルールがわからない幼い子供を持っていると、迷惑をかけてしまうので公の場所に出るのを尻込みしてしまうところがありました。だから小さな行動範囲で生活をしてしまい、日々の生活に森とのつながりを実感できずにいました。この活動に参加して、快く迎え入れていただいたことで森と人と枠を超えてつながることができました。さらに参加して感じたのは緑のダムの活動は森を楽しむ機会を与えてくれる場だということ。

何より参加して楽しかった！楽しいというのが最大の自然との調和かもしれない。ボランティアとは義務でするものではなくて、困っている親友を助けるようなこと。もし親友が困っていたら、損得とか関係なく力になりたいって思いますよね? それと感覚が似ています。森はひとの命の源だからもっとその衝動は強くなるじゃないかな。森にいて楽しい、だから森を大切にしたいという感情は自然と沸いてくるものなんですね。

頂いたカブトムシの幼虫、家で元気にしています。カブトムシを見るたびに森の息吹を感じています。また参加してカブトムシのためにクヌギの小枝を頂きたいです。活動に続けて参加していたら娘も森が大好きになること間違いないですね。

（奥田弘美
フリーペーパー「花鳥風月」）

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食；自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

会員コーナー

●会員のコーナーでは、皆さんの自由なご意見やご提案をお願いいたします。下記の専用メールアドレスか、事務局FAXまでご連絡ください。また、こちらのコーナーへの投稿や写真の提供もお待ちしております。

●通帳からですと振り込み手数料が掛かりません。
領収書はゆうちょ銀行等の発行する領収書をご利用下さい。
また、新規入会の方は、住所、電話番号を事務局にお知らせください。
振込の際は局の振込用紙に記号、番号を記載し、振込者の情報を記入して、機械操作にてお振り込みいただけると助かります。

世田谷郵便局　（記号）10000-（番号）65791651

NPO法人
緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局 Tel&Fax　03－3411－1636
ＵＲＬ：http//www.midorinodam.jp
E-mail： info●midorinodam.jp　●を＠に変更して使用してください
corner●midorinodam.jp　会員コーナー専用アドレス

協働団体：セブンイレブンみどりの基金、相模原市（市民協働推進課）、東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
支援団体：WWF JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、神奈川県建具協同組合、JFEメカニカル、東急コミュニティ、マルモ出版

急がず、無理せず、楽しく、休まず、ボチボチと・・。
そして、沢山の参加で森は、良くなる。
（台風の日は勉強会開催。１６年間、一日も休まず“継続は力”。）